

令和4年度 第1回 温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日	令和4年9月27日（火） 午後2時～午後3時55分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○出席者	五十嵐伊都夫会長、五十嵐正直委員、三浦英喜委員、若松邦彦委員、片岡正孝委員、齋藤彦一委員、佐藤美代子委員、佐藤俊介委員、今野久良委員、野尻晶委員、（10名）
欠席者	佐藤昌幸委員、飯塚厚司委員、伊藤美代委員、齋藤武大委員 柴田千尋委員（5名）
市側出席者	【温海庁舎】 粕谷支所長、齋藤総務企画課長、加藤市民福祉課長、伊藤産業建設課長、佐藤地域まちづくり企画調整主査、今野主事 【本所企画部】 地域振興課 齋藤地域振興専門員
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	0名
○次 第	1. 開 会 2. あいさつ 五十嵐伊都夫会長 粕谷一郎支所長 資料0 3. 報 告 （1）温海地域乗合タクシーの利用実績について 資料1 4. 意見交換等 （1）地域まちづくり未来事業等の進捗状況について 資料2、3 （2）その他 ・マイナンバーカードの取得促進について 資料4 5. 閉 会
○委員発言の概要	3. 報 告 （1）温海地域乗合タクシーの利用実績について

会長

・令和4年度第一四半期の運行経費について、1人当たりの運行経費が増加している。戦争の影響で燃料費の高騰が原因かと思われるが、この傾向が続くと一人当たりの運行経費は高止まりになる。利用者数は微増となっているが、この点をどう捉えているか。

齋藤総務企画課長

・平沢線と戸沢線の2路線において、あつみ温泉駅から温海温泉までの便数を2便増やしたことにより、一人当たりの運行経費が増加したと捉えている。運行経費については、年度当初に温海地域公共交通運営協議会が運行事業者と1日当たりの運行経費を決めて契約している。現在は契約に基づき運行をしているが、今後、燃料費の高騰について注視し、運行事業者と協議し事業を進めていきたいと考えている。

4. 意見交換等

(1) 地域まちづくり未来事業等の進捗状況について

H 委員

・大学生を対象とした「武者修行プログラム」が、あつみ温泉で実施され、6つの班が、それぞれビジネスを提案し、そのうち2つが採択され、その後も地元で事業を継続されるとのことだったが、どのような提案が採択されたのか。
・畑らいふ支援事業について、あつみ天パク会が野菜作りを指導しているとのことだったが、どのような活動をしているのか。

齋藤総務企画課長

・武者修行プログラムの6つの班のうち2つの提案が採用された内容について、1つ目は、鶴岡特産の「だだちゃ豆」を使用した商品の開発で、だだちゃ豆をずんだ餡にして団子にかけた「あつみ団子」と「だだちゃシェイク」であった。実際、試作したものを温海温泉のかじか通りで販売し、お客さんの意見を聞き、改良を加えて提案していた。2つ目は、夜の温泉街を歩いて楽しむことに着目し、川沿いのかじか通りが夜間暗いことから、川沿いのライトアップと近隣の酒屋からの商品提供を組み合わせた提案があった。

伊藤産業建設課長

・畑らいふ支援事業については、鼠ヶ関駅裏の畑を借り、あつみ天パク会が野菜作りの素人の方に対し、野菜作りを教えている。その活動を支援して3年目になる。参加者の方々は意欲的で、道の駅「しゃりん」のイベントで生産した野菜の販売を行った。この事業は、野菜作りの後継者の育成と、新道の駅で売る、稼ぐことを目指し取り組んでいる。

A 委員

・温海地域の人口減少と少子高齢化の現状について、予想はしていたが、資料を見て衝撃的だった。その対応策としてのまちづくり未来事業について、総じて従来と代わり映えない事業の羅列で真新しい提案がない。より温海地域の魅力を知ってもらい、定住人口や関係人口を増やす手立てを市職員から知恵を

絞っていただきたい。住民と共に知恵を出し合い、人口減少、高齢化の流れに対抗する機運を作っていきたいと常々考えている。

・新規学卒者の地域への就職率は、庄内地方が県内で最低になっている。都会に出ていく比率が高い。若い人がいないと当然子どもも増えない。また、地域内で人材不足の声を聞く。温海町森林組合でハローワークに求人募集を出しても人が来ない、あつみ農地保全組合でも人手不足と聞いたことがある。地元就職するような機運づくり環境整備が必要。地域内で人材が不足している事業者を洗い出し、マッチングするような取組が必要ではないか。若者が地元に着させるための手立てを一緒に考えていきたい。

・林業について、従来は、林道を作り重機を入れて山から木材を搬出していたが、費用が掛かるから林道がなかなか出来ない。10月にタワーヤーダーという、索道を利用した集材機械を試験的に導入する。道路にタワーを立てた重機を置き、600メートル架線し木材を集める方法で、山は痛まないし、道路も必要ない。来年度、本格的な導入を目指したい。

会長

・遊休資産の利活用、廃校活用について、先日、温海町森林組合の取引先である(株)トーセンに行ってきたが、会社が廃校を買い取り、そこに製材工場を建設し、地元の方々を従業員として雇用していた。地域活性化の取組事例として紹介させていただく。

C 委員

・酒井家庄内入部400年記念事業として、9月17日にあつみ温泉に酒井家18代酒井忠久氏をお迎えし、講演会と「殿様の薔薇」植樹式を行った。

・現在の「ばら園」は昭和38年に完成し、樹齢60年以上の希少価値のあるバラが多い。また、16代酒井忠良公がお育てになった「殿様の薔薇」231本が、10年前(2012年)に鶴岡公園からあつみ温泉ばら園に移植され、こちらは、樹齢70年近くになっている。全国でも温泉街に「ばら園」があるのは、あつみ温泉だけなので、日本海沿岸自動車道が全線開通の折には、あつみ温泉の魅力の一つとして「あつみ温泉ばら園」をPRできるのではないかと考えているので、あつみ温泉ばら園の大規模リニューアルについて、今後も注視し意見を述べていきたい。

伊藤産業建設課長

・あつみ温泉ばら園を皆に愛される「ばら園」にしていきたい。

D 委員

・あつみ温泉集客イベント事業について、来年度以降の計画にイベント支援から日常の魅力づくりにシフトとあるが、具体的に説明願いたい。

伊藤産業建設課長

・あつみ温泉街の魅力づくりとして、川沿いに歩行者優先道路の整備や無電柱化、足湯の整備、滞留拠点といった休憩場所の設置などハード整備を行ってき

たが、これらの設備が経年劣化しつつある。観光客に寂れた街の印象を与えないように設備をリニューアルする。イベントは単発で終わってしまうため、温泉街の日常の魅力を高める取組を進め、お客様から「いい温泉」の印象を持ってもらえるような魅力ある温泉づくりを目指す。

B 委員

- ・道の駅「しゃりん」の跡地利用について、庁舎内で検討を始めているとのことだが、関係各所への説明や提案はいつ頃になる予定か。
- ・まちづくり未来事業について、実施した結果、どのような成果があったか、もう少し示してほしい。そのうえで、今後どのようにしていくかを考えるべきである。次年度以降の計画については、出来る限り関係者や地域住民に出来るだけ早く資料提供してほしい。地域の声を早めに聞かなければ、市の計画に地域の思いが反映されないのではないか。

伊藤産業建設課長

- ・道の駅「しゃりん」の跡地利用については、まだ庁内での検討段階。土地は市、建物はクアポリス温海の所有となっている。新道の駅が令和9年開業というスケジュールの中で、跡地利用について地域住民を交えた意見交換を行う予定でいる。時期については、検討中なのでお待ち願いたい。住民の皆さんと一緒に考えていきたい。

粕谷支所長

- ・成果の部分が見えにくいという点は、紙面の関係や説明する時間のこともあるが、次回の地域振興懇談会の資料作成に反映していきたい。
- ・地域の声を早めに聞かなければ、市の計画に地域の思いが反映されないのではというご指摘について、予算編成するにあたり、地域の主要な団体と協議する場はあるが、市民全般に対して協議する場は持っていないと実感している。要望をいただいている自治会もあるが、年度当初の自治会長会で5名以上が集まる場で「まちづくり懇談会」を開催することを提案させていただいた。地域の方々や各団体のご意見をお聞きしたいと考えているので、いつでもお声掛けいただきたい。

F 委員

- ・中学3年生を対象とした「あつみ未来塾」の学習支援や高校生の通学費支援についても、有難いと思っている。
- ・少子高齢化について、子どもが学校卒業や子育てが終わるタイミングで、家と高齢者を残して温海から転居してしまうケースが多くある。職場が無いことが大きな要因だと思う。婦人会も年々会員が減っているが、それも少子高齢化の影響も一因と感じている。
- ・高速道の鼠ヶ関ICができるとのことだが、国道345号の平沢－関川間は狭隘道路で状態が悪いので、道路拡張など検討をお願いしたい。

会長

・温海地区国県道等整備促進協力会の副会長として回答する。国道 345 号の平沢－関川間の改良については、国土交通省や県に要望をしており、改良する方向は 2 年前に決まったが、工事費と重要度の低さから整備完了まで 35 年かかるとのこと。

G 委員

・JR は、特急いなほの脱線事故以来、列車の遅延・運休が非常に増えている。運休時は代行バスが出ないため、家族送迎となる。JR（公共交通）を利用し通学している高校生の世帯には、通学費の補助があるものの、強風時や台風時、特に冬場は遅延や運休が多くなるため、家族の負担も大きくなる。通勤や通学に時間と手間がかかるため、市街地に転居した知り合いも多くいる。列車が遅延・運休した場合に代替バス等の対応があれば、住みやすさにつながると思う。

・先日 JR の赤字路線の話が新聞に載った際、羽越線は大丈夫なのか心配になった。羽越線が廃止になった場合、温海で子育てをすることは考えられなくなるのではと危惧している。

粕谷支所長

・高校生の通学については、乗合タクシーを計画する際に、温海から高校までの直行便を走らせる案があったが、私学のバス制度や、親の送迎などもあることから、すぐには実現が難しいと判断した経過がある。仮に高校への直行便を走らせることが可能であれば、公共交通に頼らずに通学できるが、コスト面や需要などを十分調べたうえで検討が必要である。

地域振興課

齋藤地域振興専門員

・JR の赤字路線については、羽越本線の村上-鶴岡間で約 49 億円の赤字があり、JR 東日本管内で一番多い赤字額と新聞報道されたことにより、心配された声も多く寄せられた。7 月 28 日に JR 東日本から発表があり、その前の 7 月 25 日に国土交通省で赤字路線に対する検討会の答申があり、赤字路線に対する再編を検討する基準が示された。基準として① 1 日あたりの利用者数を示す平均乗車密度が 1,000 人以下の利用であること②貨物列車が通っていないこと③特急などが通る幹線でないことの 3 点が示された。羽越線については貨物列車が通っており、基準となる 2019 年の利用実績が一日平均 2,000 人を超えていることから、ただちに路線再編検討が行われる協議会が開かれる基準には当てはまらないと鶴岡市として受け止めている。

・公共交通の利用者は、JR に限らず、バスや飛行機も減少している。庄内空港では、令和元年度 42 万人の乗車数に対し、令和 3 年度 10 万人と 4 分の 1 まで減少している。いずれもコロナ禍の要因が非常に大きいですが、今後、利用者をいかに回復するかが重要な課題となっている。

I 委員

・教育旅行の受け入れについて、温海ふれあいセンターでも 4 年ほど受け入れしている。アレルギー対応が必要な場合もあるため、資料は早めに頂きたい。

弁当の手配の都合もあるが、アレルギーは命に係わること、万全を期す必要がある。その点伝えていただきたい。

- ・自然体験温海コーディネート（Green Blue あつみ）が、鼠ヶ関公民館に拠点を移すとのことだったが、荷物が大変多く、公民館の貸出用の部屋にも荷物が置かれ、利用者が使いづらいとの話を聞いている。

- ・保育園の通園バスに園児が閉じ込められて亡くなる事故があったが、市側で各保育園の通園バスの管理体制を把握しているのか。また事件を受けてどのような注意喚起を行ったのか教えて欲しい。

- ・温海ふれあいセンターの利用者は、庁舎2階正面玄関前に車を駐車する方が多いが、夜間暗すぎるので改善してほしいと要望が寄せられている。特に冬季は滑りやすく危険であり、実際に滑って転んだ方もいる。また、段差に車をぶつけそうで怖いとの声もある。利用者が安全に利用できるように対応をお願いしたい。

会長

- ・自然体験温海コーディネートの前会長及び鼠ヶ関自治会長として回答する。自然体験温海コーディネートは、9月1日より事務所を鼠ヶ関公民館に移転している。鼠ヶ関公民館の他に興屋公民館の一室を借り、資材置き場として順次道具の移動を行っている。鼠ヶ関での活動が多いため、移転したものと思われる。

加藤市民福祉課長

- ・保育園の通園バス閉じ込め事故に対する市の対応について、市内保育園を一斉に管理体制等を調査した。また、安全管理のための具体的な指示の通知も合わせて行っている。

齋藤総務企画課長

- ・温海ふれあいセンター前の正面入り口付近が暗いとのことだったが、現状を確認し、担当者及び指定管理団体の温海生涯学習振興会と相談しながら、対応していきたい。

会長

- ・新道の駅の移転整備事業において、鼠ヶ関は「関所」を意識し、関所にちなんだ建物を造るとか、南の玄関、ゲートウェイとしての位置づけ等に配慮するとともに、白河の関、勿来の関に並ぶものとしてPRもお願いしたい。

伊藤産業建設課長

- ・新道の駅は、県、市、温海地域の玄関口として「関所」という特色を出していくべきだと感じている。ご意見を参考に検討していきたい。

(2) その他

① マイナンバーカードの利用促進について

<p>A 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードの取得にあたり、代理での申請は出来ないのか。取得するとどのようなメリットがあるのか。
<p>加藤市民福祉課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・申請については、やむを得ない方の代理申請は可能。代理申請の場合、本人との書類のやり取りが必要になる。 ・取得のメリットについては、現在、キャンペーンを行っているが、買い物に使えるマイナポイントの付与がある。健康保険証との一体化も進んでおり、薬の処方記録の共有や、高額診療の限度額を超えた診療について、一時支払いが不要になる。運転免許証との一体化は令和5年度末まで行われる予定。
<p>I 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードの窓口開設は、平日の夜間のみか。子どものカードを受け取る際に本人を連れて行かなければならなかったのが、小さい子どもの場合は、夜間より休日の方がよいと思う。
<p>加藤市民福祉課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日に窓口を開設することも、現在検討中である。10月以降に保育園、小中学校を通し保護者の方へ周知を行う予定である。